

平安京右京三条二坊十三町跡

2005年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条二坊十三町跡

2005年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じ広く公開することで、市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用を図っていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ規模の違いはありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたびマンション新築工事に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

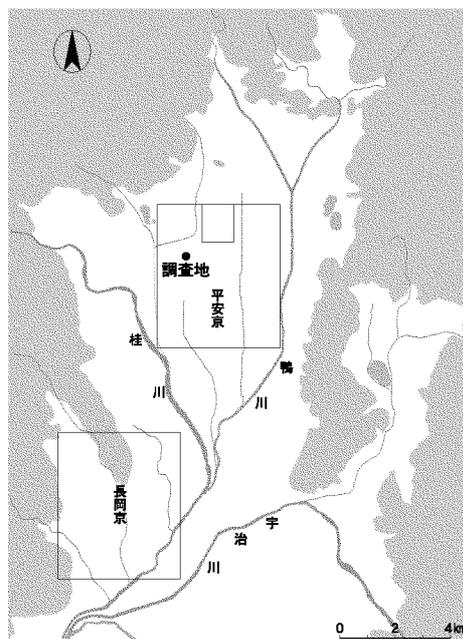
平成17年5月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条二坊十三町跡
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京三条坊町14番1他
- 3 委 託 者 株式会社ダイマルヤ 代表取締役 森田一道
- 4 調査期間 2005年2月22日～2005年3月8日
- 5 調査面積 178m²
- 6 調査担当者 山口 眞
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内・壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 本書作成 山口 眞
- 17 編集・調整 児玉光世・大立目 一



（調査地点図）

目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	3
3. 遺 物	7
4. ま と め	8

図 版 目 次

図版 1	遺 構	1	調査区全景（北東から）
		2	北壁・西壁断面（南東から）
図版 2	遺 物	1	出土土器（内面）
		2	出土土器（外面）

挿 図 目 次

図 1	調査位置図（1：2,500）	1
図 2	右京三条二坊発掘調査位置図（1：5,000）	2
図 3	調査前全景（南東から）	3
図 4	調査風景（南東から）	3
図 5	遺構平面図（1：100）	4
図 6	西壁・北壁断面図（1：100）	5
図 7	試掘調査位置図（1：300）	6
図 8	出土土器実測図（1：4）	7

表 目 次

表 1	右京三条二坊発掘調査一覧表	2
表 2	遺構概要表	3
表 3	遺物概要表	7

平安京右京三条二坊十三町跡

1. 調査経過

今回の調査は、西大路御池マンション（仮称）新築工事に先立って実施した。調査地は平安京右京三条二坊十三町の東部にあたる。調査地に関する文献はないが、既往の周辺の調査では、平安時代の建物跡、条坊関連の溝や川跡、井戸、土壌など多数の遺構が検出されている。十三町内では1984年度に当敷地内において試掘調査を行い、平安時代中期の溝を3条検出している。また周辺は、弥生時代から古墳時代の遺構・遺物を検出した西ノ京遺跡として周知されている。今回の調査区は野寺小路からははずれ、条坊関連遺構の検出は望めなかったが、十三町宅地内の遺構を検出し、利用状況を明らかにすることを主な目的として発掘調査を行った。

調査区は南北20m、東西12mのうち、北東隅を欠いたカギ型に約178㎡を設定し、平成17年2月23日より重機掘削を開始した。予想以上に遺存状態は悪く、北端部分で約12㎡ほど室町時代の遺構面が残されていたが、ほぼ全域が近世以降の削平を受けており、中世の土取り穴の底部が残るだけであった。平成17年3月1日には全景写真撮影を実施した。その後、平面実測、断面実測を行い、調査は平成17年3月8日にすべての作業を終了した。

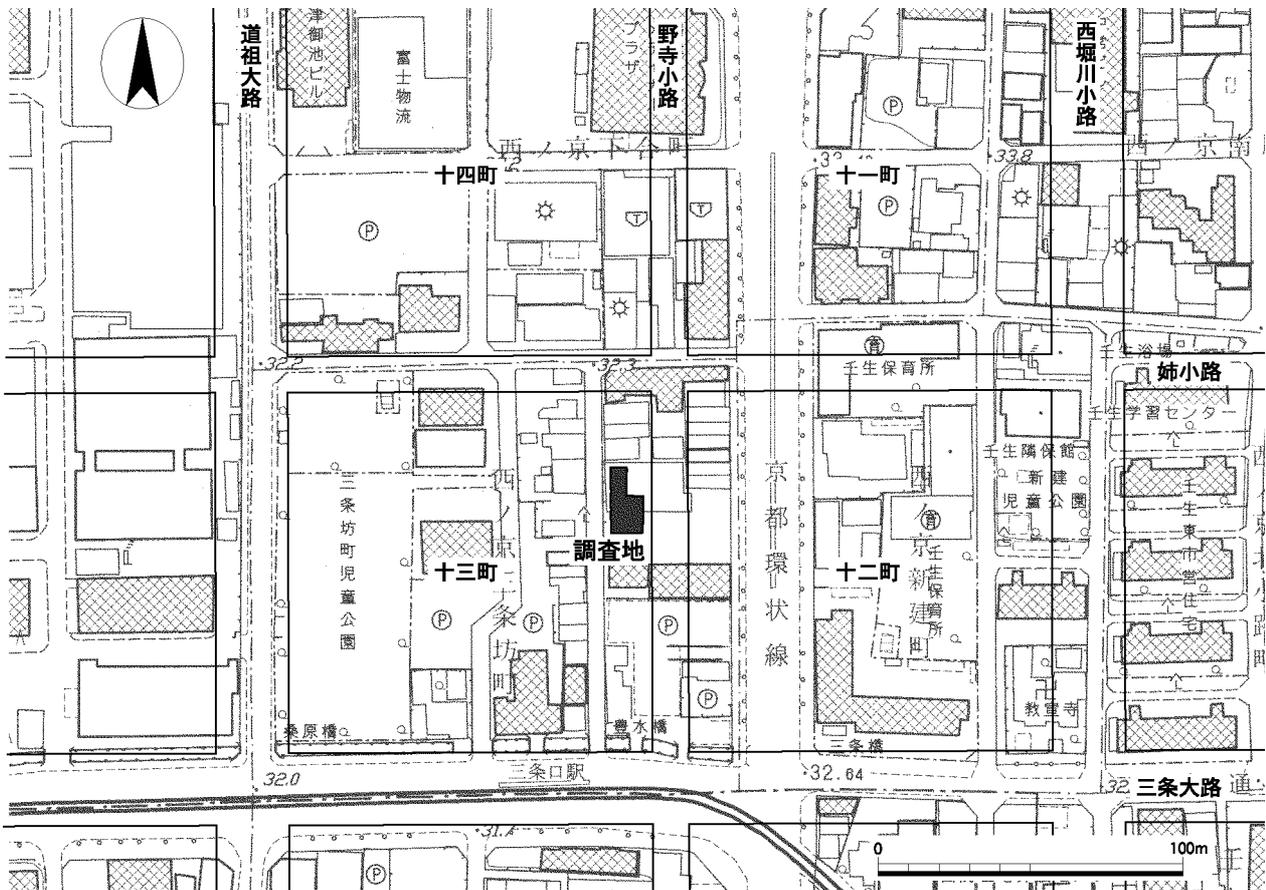


図1 調査位置図(1:2,500)

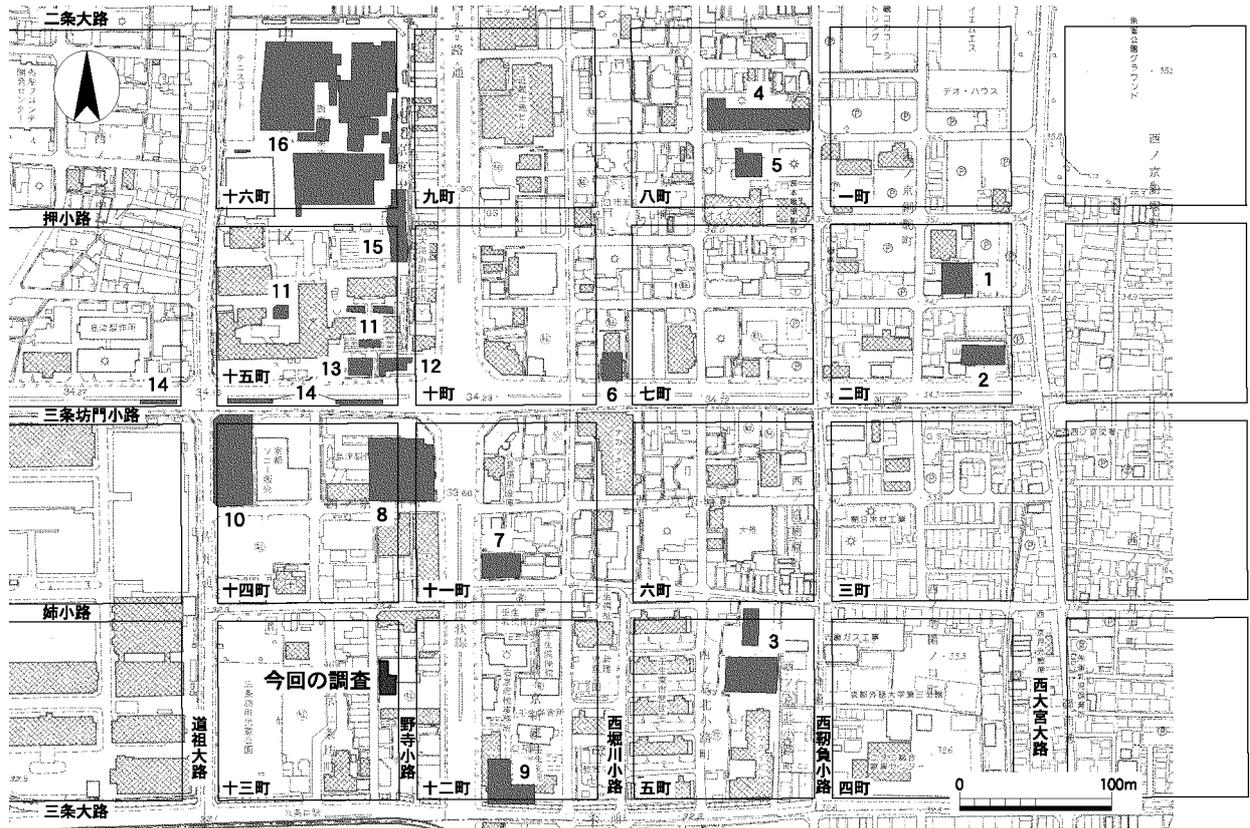


図2 右京三条二坊発掘調査位置図(1:5,000)

表1 右京三条二坊発掘調査一覧表

番号	調査地区	所在地	調査期間	調査概要	備考
1	二町	中京区西ノ京銅駱駝町68	2003.8.1~ 2003.9.10	平安時代の建物1棟、泉、溝、土壇、ピットなどを検出。	京都市内遺跡発掘調査概報 平成15年度 京都市文化市民局 2004年
2	二町	中京区西ノ京銅駱駝町76	1981.10.21~ 1981.11.20	平安時代の建物3棟、井戸1基、溝2条、柵1条などを検出。	平安京跡発掘調査概報 昭和56年度 京都市文化観光局 1982年
3	五町	中京区西ノ京北小路町4他	1985.4.15~ 1986.8.14	姉小路南側溝、平安時代の建物7棟、柵4条、井戸1基、溝5条を検出。	昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988年
4	八町	中京区西ノ京原町97	1986.12.8~ 1987.3.23	平安時代の建物1棟、井戸2基、溝1条、園池の一部、川などを検出。	昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989年
5	八町	中京区西ノ京原町99	1990.3.15~ 1990.5.11	4の調査に連続する園池の一部、柱穴などを検出。	平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
6	西堀川小路	中京区西ノ京原町64	1982.6.17~ 1982.7.10	西堀川小路の堀川・路面2面・西側溝などを検出。	昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 1984年
7	十一町	中京区西ノ京下合町41	1993.11.15~ 1993.12.10	平安時代の井戸、土壇、溝、柱穴などを検出。	調査主体：古代文化調査会 発掘調査終了報告書 1994年
8	十一・十四町 野寺小路	中京区西ノ京下合町11	1989.11.30~ 1990.2.23	三条坊門小路南側溝、野寺小路東西側溝、柵2条、川跡を検出。	平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
9	十二町	中京区西ノ京新建町5-14~5-30	1978.11.10~ 1979.1.7	建物3棟、平安時代前期の井戸1基、平安時代以前の可能性のある溝などを検出。	平安京跡発掘調査概要 京都市埋蔵文化財研究所概要集1978 1979年
10	十四町	中京区西ノ京下合町地内	1998.3.19~ 1998.6.26	三条坊門小路南側溝、平安時代の建物8棟、門2棟、柵8条、井戸3基と道祖大路川などを検出。	平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年
11	十五町	中京区西ノ京東中合町1市立西京商業高等学校	2001.1.29~ 2001.3.14	平安時代の池、土壇、柵などを検出。	平安京右京三条二坊十五・十六町-「齋宮」の邸宅跡-京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 2002年
12	十五町	中京区西ノ京東中合町	2003.11.4~ 2003.12.26	平安時代の建物、溝、柵、野寺小路川などを検出。	平安京右京三条二坊十五町 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2003-8 2004年
13	十五町	中京区西ノ京東中合町1市立西京商業高等学校	1987.5.18~ 1987.6.12	平安時代の溝4条、柱穴などを検出。他に中世の井戸がある。	昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年
14	十五町	中京区西ノ京東中合町	2001.10.22~ 2001.11.29	平安時代前期の土壇、井戸、柱穴を検出。他に室町時代の溝がある。	平安京右京三条二坊十五町・三坊二町跡 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-6 2002年
15	十五・十六町 野寺小路	中京区西ノ京東中合町1市立西京商業高等学校	1981.7.3~ 1981.7.31	押小路両側溝、建物1棟、井戸1基、中世の野寺小路川などを検出。	昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年
16	十六町	中京区西ノ京東中合町1市立西京商業高等学校	1999.7.21~ 2000.8.30	平安時代の建物群と庭園・泉など、1町規模の邸宅を検出。	平安京右京三条二坊十五・十六町-「齋宮」の邸宅跡-京都市埋蔵文化財研究所調査報告第21冊 2002年



図3 調査前全景（南東から）



図4 調査風景（南東から）

2. 遺 構

調査区の基本層序は、現地表面下40cmまでが現代盛土層で、その下に5～10cmの近世・近代の耕作土層が、その下層に暗褐色の固く締まった中世の土取り跡の埋土が60cm程堆積する。この層を除去すれば地山である黄灰色粘土層や灰白色細砂層となる。この堆積は北端部のみの様相で、調査区のほとんどの地域が現地表面下70cmまでが現代盛土層であり、その下層に5～10cmの厚さで近代耕作土層が堆積し、以下は地山である。近代削平面の標高は、調査区全域で約31.4mとなっている。周辺部の今までの調査で確認されている地形から見て、北から南に下がる地形を削平し平坦面を造り出しているものと考えられる。

遺構総数は5基と非常に少ない。以下、概略を述べる。

柱穴Pit 1 径25cm、深さ15cmの円形。平安時代前期の須恵器壺底部が1点のみ出土している。関連する遺構は確認できず、この遺構の時期は特定できない。

土取り跡SX 4 調査区北端部分に約12㎡を検出した。輪郭は不明瞭だが、砂礫を避けて掘り進められた様子が確認できた。埋土には15世紀頃の土師器や、それ以前の瓦器・山茶碗、平安時代前期の緑釉陶器・須恵器・瓦などが出土しており、土取り以前には平安時代の遺構が残されていたことが想定できる。

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
鎌倉時代 ～室町時代	柱穴Pit 1（時期不明）・土取り跡SX 4	いずれも平安時代の遺物が出土している
江戸時代	耕作溝SD 2・3	
明治時代	畑地造成SX 5	

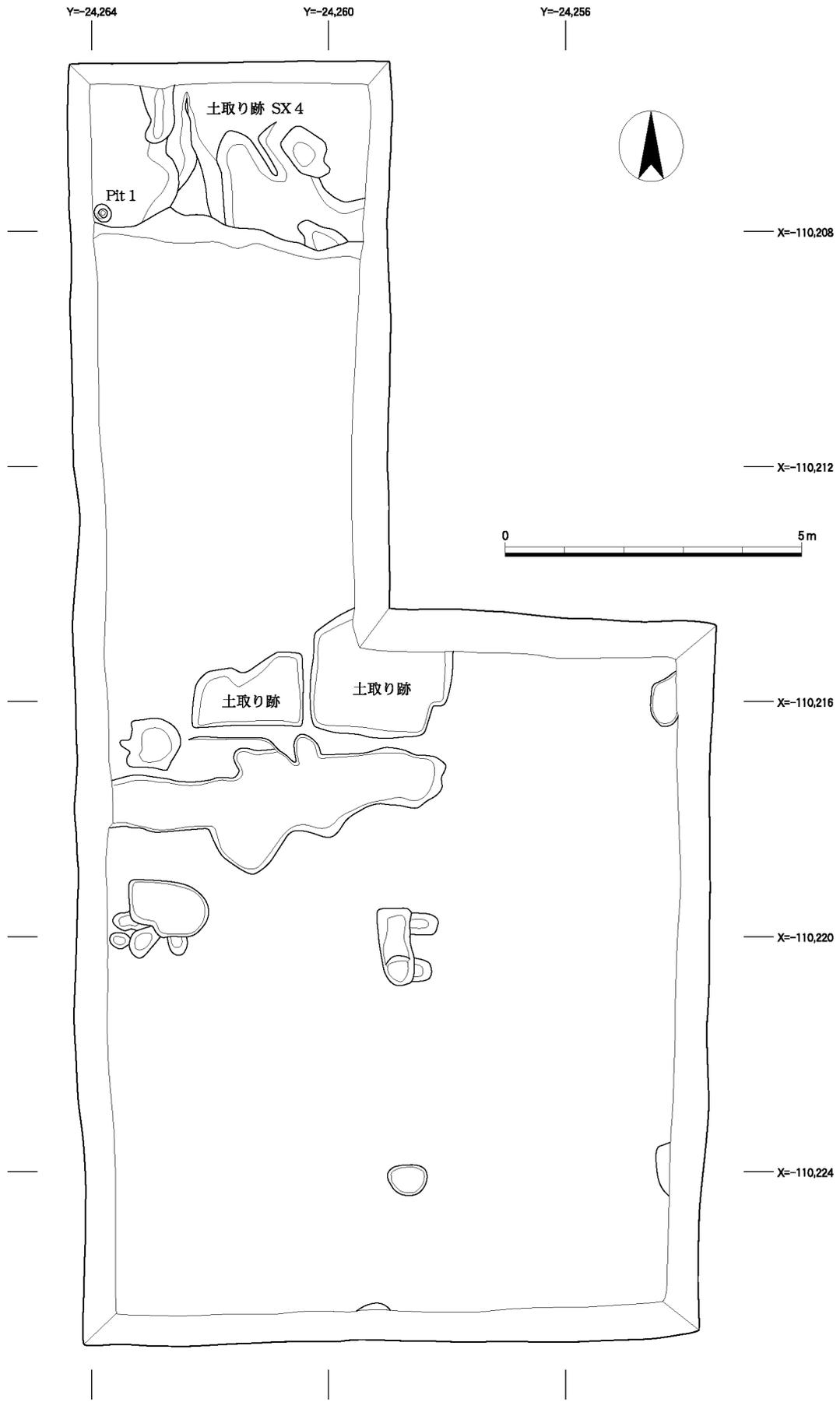


図5 遺構平面図(1:100)

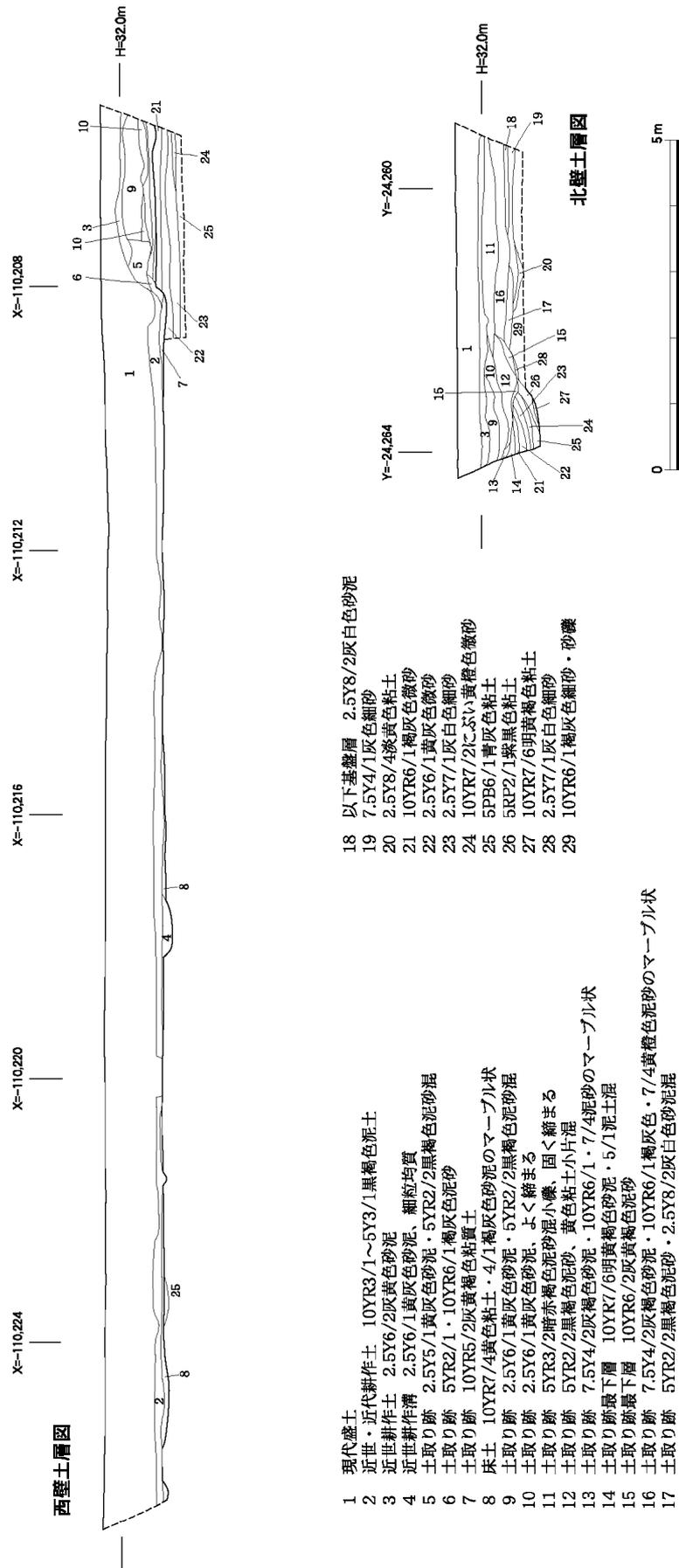


図6 西壁・北壁断面図(1:100)

耕作溝SD 2・3 幅20~25cm、深さ5cmの小溝。SX 4 を切り込んで成立している、埋土は明灰色の均質な砂泥。

畑地造成SX 5 基盤層まで達する造成で、調査区全域にほぼ広がる。耕作土からはガラスや陶磁器など明治時代以降の遺物が出土している。

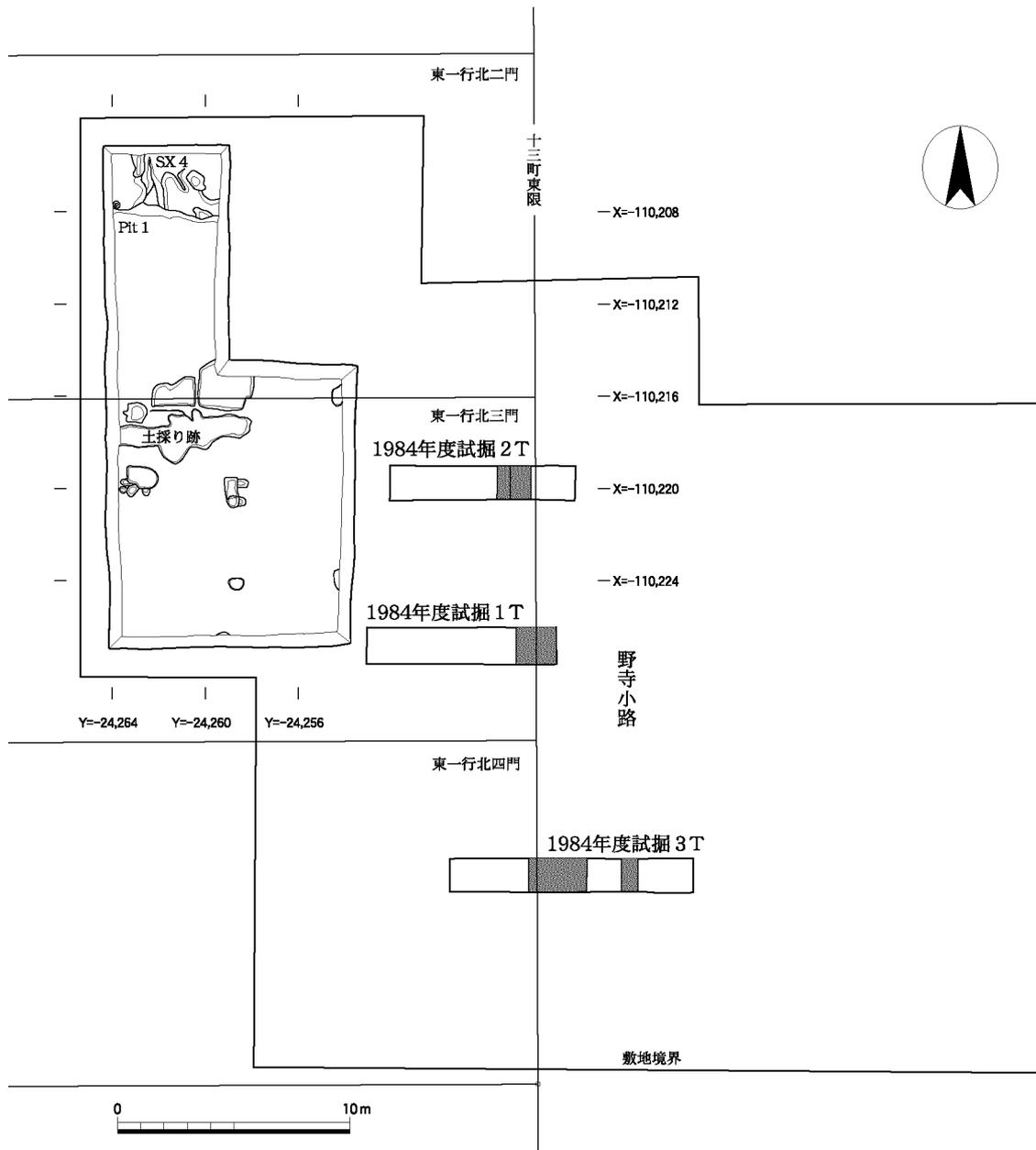


図7 試掘調査位置図(1:300)

3. 遺物

出土した遺物は整理箱に1箱出土している。その内訳は瓦、土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、輸入陶磁器、国産施釉陶器、染付、焼締陶器などである。量は非常に少なく、いずれも小片で時期的なまとまりも見られない。そのうち何点が図示できたものについて概説する。

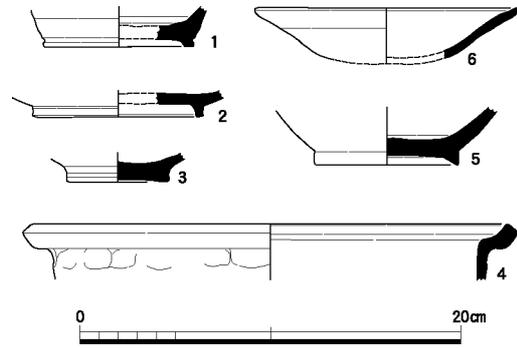


図8 出土土器実測図(1:4)

Pit 1 出土土器

須恵器壺(1) 高台の付く底部。胎土密、焼成硬質、N6/0灰色。平安時代前期。

SX 4 出土土器

緑釉陶器皿(2) 断面長方形の貼り付け高台を持つ底部、底径9.0cm。胎土やや軟質2.5Y8/1灰白色。全面施釉、淡い黄緑色。内面ミガキ。東海産。平安時代前期。

緑釉陶器椀(3) 糸切り円盤高台の底部、底径5.4cm。底部以外を薄く刷毛塗り施釉、10Y6/2オリーブ灰色。胎土須恵質N7/0灰白色。京都産。平安時代前期。

山茶椀(5) 貼り付け高台の底部。底径7.7cm。胎土細粒、焼成硬質。N7/0灰白色。鎌倉時代。

瓦器鍋(4) 口径26.0cm。屈曲し広がる受け口を持つ、体部外面はオサエ、内面は板状のもので横方向にナデ。鎌倉時代。

土師器皿S(6) 口径14.0cm。室町時代後期。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	瓦・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器		須恵器1点、緑釉陶器2点		
鎌倉時代 ～室町時代	土師器・瓦器・山茶椀・施釉陶器・白磁・焼締陶器		土師器1点、瓦器1点、山茶椀1点		
江戸時代以降	土師器・染付・施釉陶器・焼締陶器				
合計		2箱	6点(1箱)	0箱	1箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

4.まとめ

右京三條二坊では、数次にわたる発掘調査や立会調査により、状況は次第に明らかになりつつある。二坊に於いては、十六町で建物群と庭園や泉跡を、十四・十五町では建物跡や井戸、野寺小路川や道祖大路の河川、西堀川小路では川跡を検出している。これらのことから、この地が湿潤な環境にありながら宅地内は整備され豊かな生活を営んでいたことを窺わせている。十三町では、1984年度の試掘調査によって、今回調査区の東で平安時代中期の南北溝を3条検出している。検出面標高はSX5底部と揃い、深さを持った溝であったことがわかる。

調査地は東に野寺小路川、西は道祖大路の川に挟まれた宅地内にあたることから利用状況の解明が期待された。しかしながら、調査区の大部分が近代の田畑造成による削平を受け、近代の削平をまぬがれた部分に於いても、中世の土取りによる攪乱で平安時代の遺構面を確認する事はできなかった。中世の土取り跡からは平安時代前期の遺物が出土していることから、平安時代の遺構が中世までは残されていたものと考えられる。調査地北端(X=-110,208)でSX5の立ち上がりが認められ、以北では削平を受けず遺存状態が良好と思えることから、平安時代の十三町利用状況の解明は、今後行われるであろう近隣の調査に委ねたい。

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうにぼうじゅうさんちょうあと							
書名	平安京右京三条二坊十三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2004-19							
編著者名	山口 眞							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2005年5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょうにぼう 三条二坊 じゅうさんちょうあと 十三町跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 にしきょうさんじょうぼう 西ノ京三条坊 ちょう 町14番1他	26100		35度 00分 22秒	135度 44分 03秒	2005年2月 22日～2005 年3月8日	178㎡	マンション 新築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平安京右京 三条二坊 十三町跡	都城跡	平安時代			瓦・須恵器・緑釉陶器 ・灰釉陶器			
		鎌倉時代 ～室町時代	柱穴・土取り跡		土師器・瓦器・山茶碗 ・施釉陶器・白磁・焼 締陶器			
		江戸時代以降	耕作関連溝・畑地 造成		土師器・染付・施釉陶 器・焼締陶器			

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-19

平安京右京三条二坊十三町跡

発行日 2005年5月31日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961